

職員による自己評価

A環境面

事前準備の仕組みを導入したことで、支援中に行う準備が減ったことで負担軽減された。

B児童への支援内容

活動選びだけでなく、児童の現在に焦点を当てて必要な生活支援等にも注力した。

C関係機関との連携

関係機関とは支援に対して足並みを揃える意識を持っていたことで相互の情報交換を密に連携した。連絡会のみならず日頃から連携を重ね最善に努めた。

D保護者への説明責任・信頼関係

当日の活動での取り組みや新たな発見等、細かくお伝えすることに努めた。

E非常対応

自然災害時や積雪時のイレギュラー対応についてより早い段階でご家族様に対応方法等をお伝えしていきたい。

保護者による評価

A環境面

スペースはわからないが、プライベートが保たれている。

B児童への支援内容

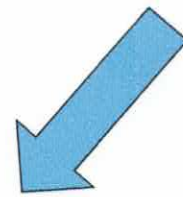
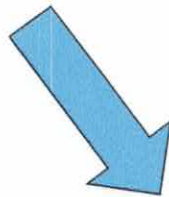
家庭で連れていけない外活動はありがたく継続してほしい。

C事業所からの情報発信

インスタグラムに活動写真が載っており活動内容がわかり、お便りもとてもわかりやすい。

D非常対応

スタートブックに緊急時などの事業所対応が記載されていてわかりやすい。



事業所内での分析

【共通点】

社会性に通じた施設見学や外出支援等は特に幼少期からの取り組みが必要であり、ご家族様からも賛同をいただいた。当日の様子を詳しくお伝えする意識を持ったことで、配布しているお便り等から活動のイメージを持っていただきやすい。

【相違点】

個々の課題に焦点をあて、日常の生活課題に注力しているが外出の機会・余暇の必要性を強く願ってくださっている事も見受けられ双方のバランスを保つことにも尽力したいと感じた。

分析・検討してみて…

### 事業所の強み

- ・起こりうる状況の想定と対処を個々に応じた手段・方法を日頃より用い培えたことで、子どもたちの選択の裾野が広がるサポートを行える。

### 事業所の改善点

- ・個々の成長や必要なサポートに最善を果たすため、何か一つの物事（療育、生活課題、余暇、イベント、社会科見学）に捉われず、一人ひとりの物差しで適宜支援していく仕組みを構築していかなければならない。

### 事業所の改善への取り組み

- ・個々の生活スタイルやサポートする全ての機関での過ごしにより目を向け、その日その瞬間ですべき事を深く考え支援していく。
- ・課題の克服・改善に向けた個別支援に対応するために児童、ご家族様との関係性構築により尽力していく。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・ご利用中の様子から捲って必要なサポートをするだけでは根源からの解決に至らず、その場の有限的な改善にしか過ぎない事を強く感じました。児童一人ひとりの一日、一週間・起床から就寝まであらゆる場面展開が発生していることに留意し見えていない部分を見ようとする事で児童にとって意義が果たされるのではないかと願い、実行していかなければならないと感じています。

事業所名 E-NE CREATE 北新横浜

担当者 萩原 康史